

2023年6月25日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第66巻第12号(通算3344号)
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさまがすべてのひとと共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切にする神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

せいれいこうりんせつ だい しゅじつれいはい
聖霊降臨節 第5主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜん そう もくとう
前 奏 黙 禱

まね ことば しへん
招きの詞 詩編

さんび か ばん きょう ひかり
賛美歌 21-205番「今日は光が」(©教団讚美歌委員会)

せいしょ そうせいき
聖書 創世記

へん せつ
86編 1-2節

きょうだんさんびかいいんかい
21章 14-21節

いの
お祈り

さんびか ばん かみ ころ
賛美歌 21-492番「み神をたたえる心こそは」(©教団讚美歌委員会)

かのじょ なみだ
メッセージ「彼女の涙」

おかじま ちひろ でんどうし
岡嶋 千宙 伝道師

さんびか ばん
賛美歌 21-475番「あめなるよろこび」(©著作権消滅)

しゅいの ばん てん ちち
主の祈り 62番「天にいますわたしたちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの
献げ物(*)

たんじょうしゃしゅくふくしき
誕生者祝福式(**)

はけん ばん かみ めぐ う せつ
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅくふく ばん ちひろ でんどうし
祝福 岡嶋 千宙 伝道師

こうそう ばん
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほうこく ページ さんしょう
報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

** みんなで今年度6月までにお生まれの方をお祝いいたします。

ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

¹主よ、私に耳を傾け、教えてください。

私は苦しむ者、貧しい者です。

²私の魂を守ってください。

私は忠実な者です。

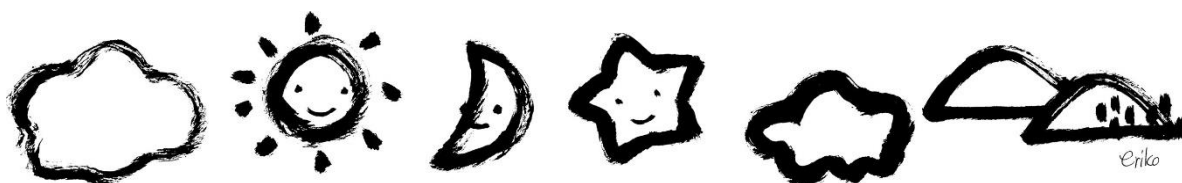
あなたの僕を

あなたに信頼する僕を救ってください。

あなたこそわが神。

聖書 創世記 21 章 14-21 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹⁴ アブラハムは朝早く起きて、パンと水の革袋を取ってハガルに与え、肩に
負わせ、子どもと共に送り出した。彼女は出て行って、ベエル・シェバの荒れ野
をさまよった。¹⁵ 革袋の水がなくなると、彼女は子どもを一本の灌木の下に行かせ、
¹⁶ 自分は矢の届くほど離れた所に行き、彼の方を向いて座った。子どもが
死ぬのを見るのは忍びないと思ったからである。彼女は彼の方を向いて座り、
声を上げて泣いた。¹⁷ 一方、神は子どもの泣き声を聞かれ、神の使いが天から
ハガルに呼びかけて言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。
神はあそこにいる子どもの泣き声を聞かれた。¹⁸ さあ、子どもを抱え上げ、あな
たの手でしっかりと抱き締めてやりなさい。私は彼を大いなる国民とする。」
¹⁹ 神がハガルの目を開かれたので、彼女は井戸を見つけた。彼女は行って革袋に
水を満たし、子どもに飲ませた。²⁰ 神は子どもと共におられ、その子は大きくな
って、荒れ野に住み、弓を射る者となった。²¹ 彼はパランの荒れ野に住み、母は
エジプトの地から彼のために妻を迎えた。



《先週のメッセージより》6月18日 聖霊降臨節 第4主日礼拝

「信頼をもって歩みを起こす」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 8章 40-56節

今回のお話は癒しの奇蹟のお話でした。これらのお話が現代を生きる私たちに告げていることは何でしょうか。今でもなお不治の病は沢山あります。長年、信仰生活を送り、熱心にお祈りをしている人が、病気にもかからず、事故にも遭わないかという、そうとも限らないのが現実です。このお話の中で重要な点は、長年病気に苦しんで来た女性が、単に心の中で願っただけではなく、実際に行動を起こしたという点でした。それまでずっと病いのため穢^{けが}れている存在として、周りから排除される側に立たされていた彼女が、自らの判断と行動で歩み出し、イエス様の服の裾にしがみついた時に、彼女自身の身に変化が生じ、奇蹟が起きました。もう一つの点は、お互いに「しがみつき」「手を取り」「手当て」をしたという関係性です。私たちは大勢の人の中にも孤独を感じることがあります。彼女たちの周りにも多くの人々がいましたが、直接彼女と触れ合い、心を通わせるような人はいなかったのでしょうか。そのような中、イエス様は直接、彼女の手を取り、呼びかけられ、彼女を引き起こされました。クリスマスに私たちと同じ無力な赤ちゃんとして生まれたイエス様がなさったことは、やろうと思えば誰にでも出来る普通なことでした。でもそこに不思議なことに奇蹟が生じたのです。

今もなお、私たちは様々な病気に苦しみ、事故や災害に思い悩んでいます。大きな喪失や不安を抱える中で、時には「こんなに苦しい中、死んだ方がマシだ」と思ったり、「これまでの自分は失われ、死んでしまった」と思ったりするがあります。しかし、たとえそのような時でも、誰か自分の手を取ってくれて、心から耳を傾けて話を聴いてくれて、一緒に歩んでくれる同伴者がいてくれれば、私たちはそれまでの役割や立場から解放されて、それらを乗り越えて、新しい自分、新しい命、新しい人生を歩み出して行くことが出来ます。そしてふと振り返ってみた時に、今の命が与えられているということ、隣り人たちの中に、今生かされているということ自体が、紛れもない一つの奇蹟なのだということに気付くことが出来るのではないのでしょうか。全ての命を創られた神様が、いつも一緒にいてくださるということ、私たちは神様の中に生かされているということに信頼して、小さな一歩から、信頼をもって歩みを起こしてみること。その中で、私たちは今も生きておられるイエス様と出会い、日々に小さな奇蹟と出会っていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (6月18日)

礼拝出席 大人6名 献金 大人6,000円
 中継動画再生数4回 感謝



◎次週 2023年7月2日(日)

招きの詞 詩編 22編 27節
 聖書 ルツ記 1章 1-22節
 メッセージ「あなたと私をつなぐもの」牛田匡牧師
 賛美歌 21-561 (©P.D.)、21-542 (©JASRAC)、21-419 (©JASRAC)

◎お知らせ

- ・本日、礼拝後に釜ヶ崎・いこい食堂支援のための「おにぎり作り」を行います。どなたでもご参加ください。
- ・本日、14時より、枚岡教会にて河内地区婦人会が開催されます。併せて「井上直聖書絵画展」も本日19時まで同教会にて開催されています(観覧無料)。
- ・新型コロナウイルス感染症は、「季節性インフルエンザ」などと同じ感染症の分類になりました。しかし、ウイルス自体が無くなったわけではありませんので、それぞれの方の体調等に合わせ、引き続き感染症予防には留意しながら、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・7月8日(土)16時～翌9日(日)12時にかけて、京都にある関西セミナーハウスにて、開発教育セミナー「地球と食の未来を考える～人も自然も壊さない経済とは?～」が開催されます。講師は平賀緑さん(京都橘大学)で、平賀さんのお話の他、参加者同士での話し合いの時間も予定されています。参加費は、一泊二食込、京都市宿泊税込で、11,000円です。申込期限は7月2日(日)です。詳細は日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス活動センターのウェブサイトをご覧ください。お申し込みもウェブサイトから専用フォームで可能です。

<https://www.academy-kansai.org/index.php>

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
7/2	牛田牧師	ユウカリスト 教会を考える会
7/9	水谷牧師	部落解放祈りの日 14時～ 服部墓地墓前礼拝
7/16	牛田牧師	
7/23	岡嶋伝道師	おにぎり支援

2023年度 開発教育セミナー 第2回 関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会

人権・平和・環境などの地球的課題がテーマの参加型学習。特に日本と世界のつながりを「持続可能な開発」度キーワードに考える。

地球と食の未来を考える
 ～人も自然も壊さない経済とは?～

パンデミック、ウクライナ紛争、気候危機により、物価が高騰するだけでなく、一人ひとりの食のちが大きな危機にさらされています。露わになった脅威が、脆弱な国や地域の人々をさらに深刻な状況に追い込んでいます。その大きな要因である世界のフードシステムを読み解きながら、地球と食の未来を考えていきましょう。

講師: 平賀 緑さん(京都橘大学経済学部)
 日時: 2023年 7月8日(土)16:00～9日(日)12:00
 場所: 関西セミナーハウス (裏面に地図)
 参加費: 11,000円(1泊夕食込み)+200円(京都市宿泊税)

- * 宿泊は、1室1名を基本とします。相部屋も可能です。
- * 2日目昼食ご希望の方は申込時にご予約ください。(1,150円)
- * Webサイト(申込フォーム)、Fax(裏面書式)、電話、メール等でお申込みください。
- * 申込締切: 7月2日(日)、または定員20名に達し次第。(締切日以降は、電話でお問い合わせください。)
- * 部分参加については事務局にお問合せ下さい。
- * 前日正午以降の取り消し、ご変更は、キャンセル料がかかります。

平賀 緑 ひらがみどり
 立命館大学BKC社系研究機構客員協力研究員、植物油を中心に食料システムを政治経済的アプローチから研究、手づくり企画「ジャーニー・トゥ・フォーエバー」共同代表、AMネット、使い捨て時代を考える会、環境市民、西日本アグロエコロジー協会、ミュニシパリズム京都などに参画。
 著書『植物油の政治経済学～大豆と油から考える資本主義的食料システム』
 『食べものから学ぶ世界史～人も自然も壊さない経済とは?』

(後援)京都市教育委員会、京都府教育委員会(申請中)、認定NPO法人開発教育協会(ENR)(申請中)、京都府国際センター